

嘘

金城真喜子

騙されちゃダメって言われてるけど

欺かれそうな危ない自分が好き

「うん うん うん」とうなずいていると

子供の頃の思い出が浮かんでくる

大人たちの作り話を聞いたたり

物語を読んでもらったり

そんな時

「うん うん」といろんなことを想像しながら
心を広げていく自由な私

疑っている時の

ピリピリした私ではなく

幸せにうなずく幼い頃の私が好き

作り話を聞きながら

悪意には気がついていないように

美しく安全などここに着地できたらいいな

あなたも私もいい人のままで

嘘をつきながらも優しくして細やかな心配り

いつから騙す時に使うことになったのでしょうか

ほんとうはちよつと聞いてみたい

私、むかしは演劇やっていたので

駆け落ち

金城真喜子

「駆け落ちしようよ」と

大人の誘い

「私ダメなのよ」

駆け落ちするなら小ぶりで上等なハンドバッグ

新品のハイヒール

これでなくちゃ

年をとると小さなバッグでは間に合わないの

メガネやいろんな薬の入る大きめのバッグ

たくさん歩いても疲れないローヒールの靴

だいいち

見つけた時の化粧のハゲた顔

乱れた髪

若ければそれも魅力

今はもうダメ

駆け落ちって素敵よね

未来がまだたくさんあるうちは

女の履歴書のランクがアップする

ちよつと気のきいたエピソードなもの

花の季節

金城真喜子

左の窓の外には

川べりに咲くナノハナが広がり

右の窓の外は遠くまで続く満開のサクラ

私はシートベルトを外し

駅のロータリーに足を下ろす

広場を囲うのはパンジーとサクラソウ

泣きたくなるようなあの瞬間

今度会ったらこんなことを話してみたい

次にまた会ったらこんなことを聞いてみたい

時は四月

永く薄氷で覆われていた私の心に

今年五月の赤いバラ

まだ蕾

金城真喜子

きんじょう まきこ

写真家

フラワーデザイナー